

## 臨床栄養部

部長 宮島 功

### 人の動き

2023年は、1名の退職者がおりました。また、11月に1名が産休・育休を取得しました。その一方で、2023年4月には4名の職員と1名の長期研修生を迎えました。また、5月、12月にはそれぞれ1名ずつ育休復帰のスタッフがおりました。2023年12月の時点で、24名の管理栄養士と1名のクラークが在籍しています。

### 業務・取り組み

#### ・病棟業務

管理栄養士は、全病棟に常駐し入院したすべての患者に適正な栄養サポートを行なっています。また、医師・看護師より栄養サポートという周辺業務を取り除くことで、医師・看護師はコア業務に絞りがちることが可能となります。

#### ・栄養食事指導（図1、図2）

当院では、入院患者および外来患者に対して栄養食事指導を行なっています。2023年の入院栄養食事指導件数は1,969件であり、前年2022年の2,087件に比べやや減少しました。その要因の一つとして、2022年度より早期栄養介入管理加算の対象病棟が拡大となり、早期栄養介入管理華さんの算定患者数が増加しました。早期栄養介入管理加算を算定した場合、入院栄養食事指導料が算定できないため、対象患者が減少したことが、栄養指導件数の減少の要因と考えられます。2024年度の診療報酬改定にて、早期栄養介入管理加算を算定した患者に対しても集中治療室を転出後は、栄養食事指導料が算定可能となるため、増加が見込まれます。

一方、外来栄養食事指導件数は1,718件であり、前年2022年の1,599件に比べ増加しました。従来の内科患者および心臓血管外科術後の退院フォローの指導に加え、糖尿病透析予防指導の増加、消化器外科術後指導、化学療法施行患者への指導など、診療科を拡大したことが要因と考えられます。

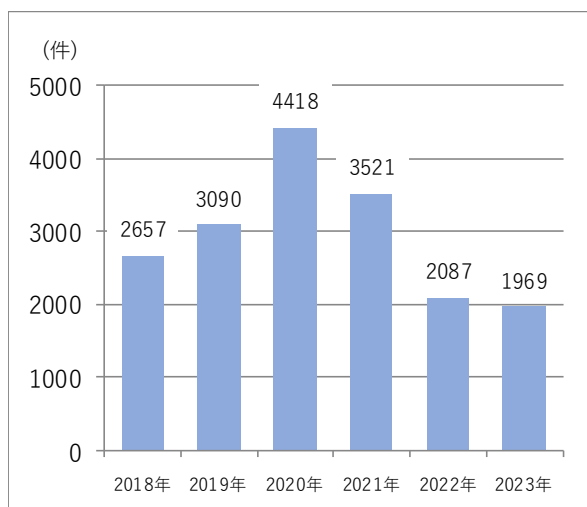


図1. 年間入院栄養指導件数

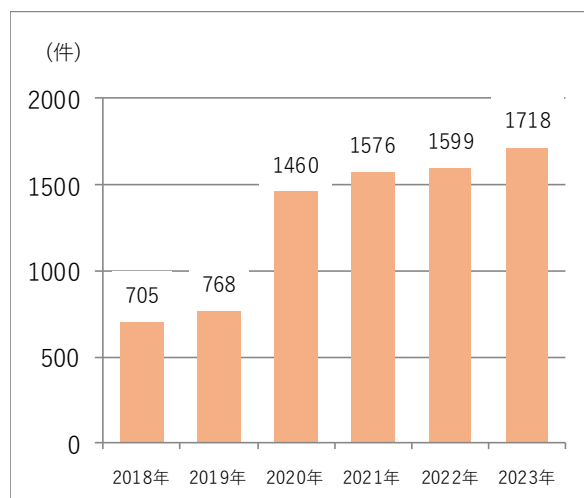


図2. 年間外来栄養指導件数

### 食事提供数、絶食率の推移 (図 3, 4)

2023年の1年間で提供した合計食事提供数は前年とほぼ同数でした。一般食・特別非加算食(高血圧食や嚥下食など)と特別加算食の割合は前年同様でした。2017年以降特別加算食が減少し、一般食・特別非加算食が増加傾向であり、この原因として、高齢患者が増加したことで嚥下食の増加や食欲不振患者に対する減塩食の解除が考えられます。

また、絶食率は例年通り15%以下を維持しており、2023年の絶食率は11.3%と低い値を推移しています。当部署では、全病棟に管理栄養士が常駐しており、「無駄な絶食をなくす」ことを一つの目標とし早期からの腸管使用に努めております。

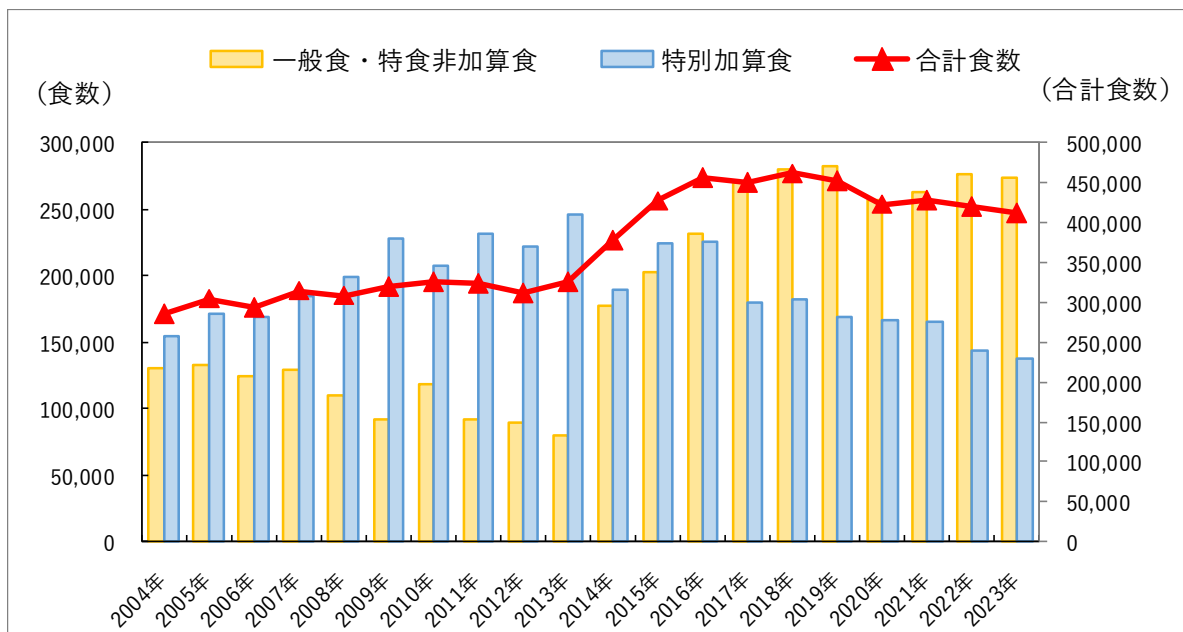


図 3. 食事提供数の推移

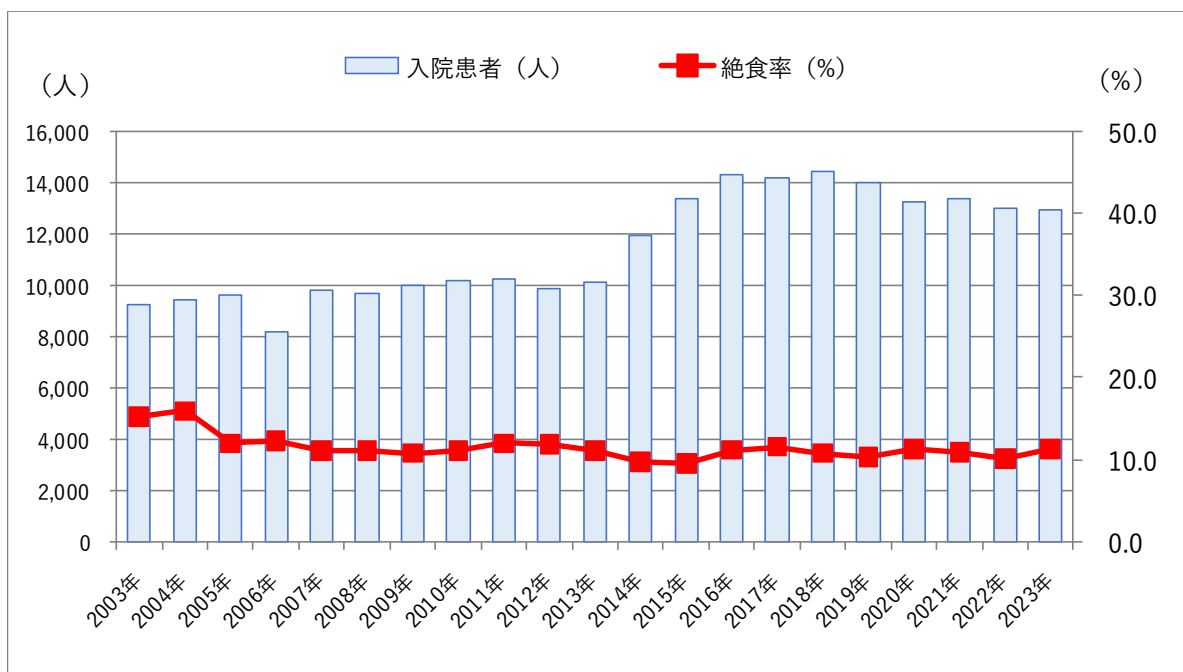


図 4. 入院患者数と絶食率の推移

### フードサービス（表1）

2006年より開始した辰巳芳子さんの「いのちのスープ」プロジェクトのもと年に4回いのちのスープの提供を実施しています。2022年は新型コロナウイルスの感染拡大を認め第61回（2022年夏開催予定）のスープ提供を中止といたしましたが、2023年は4回開催しました。

また、日々の食事に関してはaimサービスとの献立会議を定期的に行い、毎月の患者アンケートや検食の意見をもとに、献立の改良を重ねています。さらに、言語聴覚士や他職種と協議を行い、安全に摂取できる嚥下食の改良も行いました。その他、行事食や季節に合わせたメニューも提供し、食事を楽しく美味しく安全に食べていただけるよう工夫を行っています（表1）。

表1 行事食の例 (2023年)

<p>1月 いのちのスープ [夕食時] ・さつまいものポ タージュ</p>		<p>2月 バレンタイン [昼食時] ・チキンライスと チョコババロア</p>	
<p>3月 ひなまつり [昼食時] ・ちらし寿司 と節分豆</p>		<p>4月 いのちのスープ [夕食時] ・にんじんのポタ ージュ</p>	
<p>5月 こどもの日 [昼食時] ・豆ごはんとぶりの 山椒焼き</p>		<p>6月 いのちのスープ [夕食時] ・アスパラガスの ポタージュ</p>	
<p>7月 七夕 [昼食時] ・七夕そうめんと 天ぷら</p>		<p>9月 敬老の日 [夕食時] ・鰯のけんちん焼 きとようかん</p>	
<p>9月 いのちのスープ [夕食時] ・さつまいものポ タージュ</p>		<p>12月 クリスマス [夕食時] ・フライドチキン</p>	

12月  
大晦日  
[夕食時]  
・年越しそば  
・タタキ

